

7.4三里塚集會に  
雨天ついで 9300名

# 反対同盟破壊攻撃を打ち破り 二期阻止をかちとるぞ!

三里塚・ジェット闘争貫徹! 「国鉄35万人体制」粉碎!

「空港設置」閣議決定十六周年弾劾・「話し合い」攻撃粉碎・二期阻止・空港廃港七・四全国総決起集會が三里塚第一公園に全国から九三〇〇名が参加して開かれ、一切の話し合いを拒否し、二期着工を阻止する決意をあらたにした。

条件派づくりの策動を打ち破る  
一九六六年七月四日、地元の了解もなく三里塚空港建設が一方的に閣議決定されて以来十六年間、反対同盟農民を先頭とする実力闘争によって、一九七一年四月一日開港予定の空港は、いまだ滑走路一本の欠陥空港を強制されている。

この間、政府・空港公団は二期着工にむけ、あらゆる攻撃をかけてきた。すなわち、二期工事は同盟の解体なくしてありえず、昨年末より条件派づくりのための「話し合い」攻撃をしかけ、反対同盟の路線転換をせまってきた。これに対し、反対同盟は総力をあげた闘いによって、この攻撃を見事に粉碎したが、追いつめられた政府・公団は、条件派組織構想と条件和解案十一項目を公表し、公然と「話し合い」を要求する一方で、除草剤配布を口実とした潜入や、成田用水推進による分断策動、公団用地貸し付け等の切り崩し攻撃を行ってきた。

集會では、いかなる攻撃も粉碎し、農地死守・実力闘争を貫き、勝利するまで闘い抜く反対同盟農民の決意が明らかにされた。

三里塚闘争はあらゆる闘いの原点だ

小川 嘉 吉さん

天神峰の小川嘉吉さんは、権力が収用法という最後の切り札をもってしても、我々を追い出すことができなかったことは、我々の闘いが正義であることを証明している。今後の三里塚の闘いは、我々だけの闘いでなく、日本のあらゆる闘いの原点である。この闘いに勝つことは、日本の将来に大きな影響を及ぼす重大な闘いである。空港を粉碎し、羽田へ追い返そう。」との決意を表明した。

政府・公団の口裏にはのらない

島 村 良 助さん

また東峰の島村さんは、「専守防衛をいい、悲惨な戦争をくり返そうとしている政府・自民党を倒さねばならない。十六年の闘いによって、一介の農民が実力をもって闘わねばならぬ場をつくりあげてきたものこそ、国家権力・機動隊の暴力である。一期工事を二度とくり返すことはできない。政府・公団は、裸になって話し合うといいながら、

二期工事の予算をくんでいっている。絶対にその口裏にのるわけにはいかない。再び一期工事のようなことをやるなら、大衆の力でこれを粉碎することを確信する。」と決意表明した。

戦争へむかう政府の野望を打ち  
砕こう 関川 委員長

今集會にも全国から多くの労働組合や団体が参加し、二期阻止の決意を表明したが、百五十名で参加した勤労千葉を代表して関川委員長は、「第二臨調第四部会をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃、さらにマヌコミの悪意にみちた反国鉄キャンペーンをはね返していかなければならないが、その闘いは、反対同盟と十六年間ともに闘い抜いた根性があればやりぬける。勤労「本部」革マルは、ヤミでもカラでもないブル・トレの旅費を自ら返すことを決めた。その指導をしているのが革マル執行部であり、これが労働組合といえるだろうか。権力・資本と闘い労働者の権利を守るのが労働組合である。全員で協力し、戦争へむかう政府の野望をうちくだこう。」と訴えた。

集會は最後に、条件派組織づくりの攻撃を根絶するため、夏から秋を総力で闘い、そのすべてを十・一全国総決起集會に結実させ、八二年を勝利の年としてかちとるために闘うことを宣言して終了した。



「絶対に勝ってみせる!」主催者を代表して、敷地内最前線・木の根の小川源さんが決意みなぎるあいさつ。(1982・7・4 三里塚第一公園)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!